

経営学部

【どんな学部か】

日本では数少ない、国公立大学に設立された経営学部です。また、日本で最初にできた経営学部であり、最先端の経営が学べる場所です。経営学部で学ぶことは大きく分けると**経営学・市場経済学(商学)・会計学の3つの分野**に分けられます。経営学は文字通り、人材管理や経営戦略などの企業を経営するために必要なことを学ぶ分野です。市場経済学(商学)では、需要と供給など比較的規模の大きい経済について数学などを用いて理論的に学びます。会計学では簿記の知識を中心に企業の決算書を読み解いていきます。経営学部には現在、学科は経営学科1つしか設置されていませんが、その研究内容は多岐にわたります。市場での競争に有利な価格設定などは経済学、モチベーションに関する部分では心理学、複雑な経営問題を論理的に解くには数学、実際に集めたデータを理論と結び付けるには統計学、ある会社が若者の買い物事情などを研究しようと思えば人類学をも経営学として学ぶことになります。

【経済学と経営学の違い】

経済という学問が「会社でものをつくることができる」ことを前提として、生産の社会的分業を研究するのに対して、経営学は経済という学問が前提としている「会社でものをつくること
ができる」という部分に着目し、「**会社における協働や分業を通じた生産が、ものをうまく作る力を非常に高める**」という普遍的な出来事を研究します。また、経済学が理論志向なのに対し、経営学は**実務志向**であるという違いもあります。志望する際には、どちらの学部のほうがより自分の学びたいことを学べるのか、よく調べてみることをおすすめします。

【4年間の流れ】

1年生	<p>外国語科目や教養科目などの全学共通科目と経営学に関する専門科目を並行して学習します。1年生で経営学の専門科目を学習するうえで不可欠な基礎知識を学んだあと、それらの知識をベースに多様な専門科目を学習します。</p>
2年生	<p>2年次は1年次に学んだ基礎科目を基により詳細に専門科目を学びます。専門科目が増えますが、<u>2年生の前期が終わった段階で一定の単位を取った状態でないと3年生でゼミをとることができません。</u>専門の科目だけでなく語学などの単位も「一定の単位」の中に入ってくるので、どの授業も気を抜かないようにしましょう。</p> <p>2年生後期になるとゼミ決めが始まります。<u>ゼミには定員があり、希望者がそれを超えた場合はゼミによって形式などは異なりますが、志望理由書や面接などによって、メンバーが決まります。</u>もし落ちてしまうと、空いているゼミに入ることになります。人気のゼミは倍率がかなり高くなることもあるので、学生はこの期間がとても重要です。</p>
3、4年生	<p>3年次はさらに2年次の専門科目の学習を基に、専門科目の応用を学びます。また、ここからの2年間は通常の講義とは別にゼミが始まります。教員と少人数の学生で行われるゼミでは教員と学生との緊密な交流が築かれる貴重な場です。3年生になると他の学部の授業を履修することができるようになります。経済・経営・法学部で連携しており、履修すると卒業単位として認定されるものが多いため、経済学部や法学部の授業を履修する学生が多いですが、文学部や国際人間科学部の授業を履修する学生も見受けられます。<u>また、このあたりから4年生にかけて就職に向けてインターンに参加する人や公務員を目指してダブルスクール*をする学生もいます。</u>大学院を目指す人はかなり少ないようです。ゼミによって異なりますが、<u>多くのゼミは3年前期に教科書輪読(教科書をみんなが読み、それについて議論する)、後期に三商大ゼミ(神戸大・一橋大・大阪公立大で研究成果の発表を行う)の準備、終わったら卒業研究→卒業論文という流れになっています。</u></p> <p>*ダブルスクール…大学と資格の予備校両方に通うこと。</p>

【学部の雰囲気】(男女比→7:3)

1学年約260人と人数が多いうえ、学科が1つしかなく、全員とかがかわることはなかなかできません。学籍番号順で授業が振り分けられたりするので、学番が近い人と仲良くなることが多いです。男女比はおよそ7:3で、男女共に元気な人とおとなしい人とで二極化しています。そして元気な人に限って意外と意識高い系の人が多かったりします。経営学部では真面目な人は1年生のうちに長期インターンシップなどですでに営業を経験していたり、公認会計士を目指してダブルスクールをしていたり、留学に向けて勉強したりしています。教授は個性的な人が多いですよ!

【授業紹介】

・商業簿記 I,II(1年生)

日商簿記検定 3 級、2 級の対策講義です。資格の大原から講師が来てくださり、丁寧に教えてくれます。普通に資格を取るために学校に通うと結構お金がかかりますし、この講義を機会に資格が取れると、資格も単位もとれて一石二鳥です。また、この講義は会計プロフェッショナル育成プログラムの一環で開講されており、公認会計士などを目指す方は早い段階で準備を始められます。

・外国書購読(2~4年生)

5~8人で1つのチームとなり、実際の企業への提案を考えて、その案を実際にその企業へプレゼンしに行けるという講義です。学年はバラバラだったりしますが、高校みたいでみんな仲良く楽しいです!(外国書購読は教授によって内容が異なり、上記はあくまで一例です。)

・交通論(2~4年生)

例えばバスに乗るか歩くかどちらがいいのかということを金銭、心理、時間などの様々な面から消費者がどのような選択をするのか考察するというような講義です。実際に神大生の通学にたとえてくれるのでわかりやすく、日々の生活でも意識するようになりました。

・マーケティング(2~4年生)

「ドリルを買う客が欲しいものは、ドリルではなく穴である。」という有名な言葉があるので、マーケティングとは消費者が本当に求めているものは何なのかを追究し、それをいかに提供するかを考える学問です。この授業では過去の実例からその手法を学びます。商品の売買は身近で行われているため、この授業を受けて、どのような狙いや戦略があるのかなどを考えるようになり、商品を見る目が変わりました。経営学部に入ったなら是非とも受講してほしい講義です。

・経営管理(2~4年生)

この授業では、狭義の経営学を扱い、会社などの経営組織が自分たちの目的を達成するために人や組織を管理する方法を学びます。ただ、管理する立場である経営者の視点のみではなく、企業の中で働く人に焦点を当て、人はなぜ物事に取り組むのか、リーダーはどうやって組織を引っ張っていくのか、ということを学びます。写真やビデオを多く用いた講義なので飽きないし、内容が面白いです。この授業を受けることで経営者の考えも社員の考えも理解でき、将来会社に勤める時には、上司ともよい意思疎通を図ることができるのではないのでしょうか。

・顧客関係管理(2~4年生)

今日では企業が顧客や消費者を管理する方法が進歩しており、例えばクレジットカードから、その所有者のデータと、所有者がいつどこで何を買った、どの企業のどの商品を好んでいるかなどの情報がわかります。こういった情報から企業がどのようにして消費者の行動を分析するのか、その方法と理論を数学を用いて学ぶのがこの講義です。

【時間割の例】 ※太字は専門科目

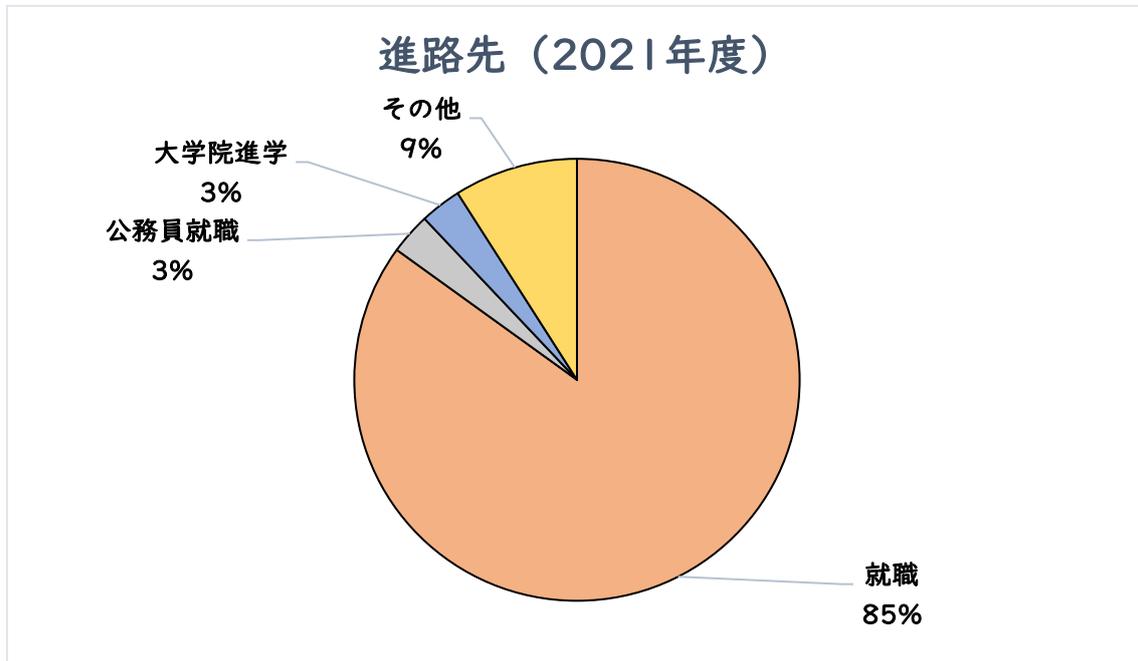
経営学部(1年生)

	月	火	水	木	金
1	教養科目	教養科目	AEL(英語)		会计学 基礎論
2	AEC(英語)	微分積分 入門Ⅱ		教養科目	経営学 基礎論
3			商業簿記Ⅰ		
4	商業簿記Ⅰ	第2外国語		第2外国語	

経営学部(2年生)

	月	火	水	木	金
1					
2	教養科目	教養科目	外国文献 講義	教養科目	経営戦略
3	交通論	経営管理			原価計算
4				コーポレート ファイナンス	
5					
6		簿記			

【大学卒業後の進路】



【取得可能な資格】

経営学部を卒業しただけでは資格を取得することはできませんが、いくつかの資格試験に役立つ講義が提供されています。また、以下の3つは受験を促されます。(簿記は商業簿記や工業簿記の履修者に限ります。)

- ・TOEIC(入学後すぐに任意で試験があります。)
- ・日商簿記3級(1年生の6月に任意で受けます。)
- ・日商簿記2級(1年生の11月に任意で受けます。)

【受験方法】

- ・一般選抜前期日程*1
- ・学校推薦型選抜*2

*1 一般選抜前期日程について

→経営学部は特殊な方法で合格者を選抜します。まず、前期試験を受けた人のうち、共通テストの点数が高い上位30%、二次試験の点数が高い上位30%を優先的に選抜します。残りの40%は共通テストと二次試験の合計の点数で選抜します。

*2 学校推薦型選抜とは

→大学入学共通テストを課す公募制一般型選抜(旧推薦入試)です。
詳しくは HP またはパンフレットでご確認ください。

【併願校】

私立→同志社大学(経済学部**一般**、商学部**一般/共**)、立命館大学(経営学部**一般/共**)、関西学院大学(商学部**一般/共**)etc.

後期→大阪公立大学(商学部)、滋賀大学(経済学部)、横浜国立大学(経営学部) etc.

***一般**=一般入試、**共**=共通テスト利用入試

【アピールポイント】

- ・人数が多くて明るい雰囲気です!カリキュラムには公認会計士の資格取得を目指す授業が含まれています。(1年生Yさん)
- ・単位がとりやすく、自分磨きに時間を使えます。また、神大の看板学部なので自慢できます。(3年生Sさん)
- ・メインキャンパスや図書館がとても美しく豪華で、自慢できます。(2年Qさん)
- ・自由度が高い。(2年生Hさん)
- ・学科が一つで人数も多いのでいろんな人と関わられます。(1年生Hさん)
- ・簿記は専門学校の先生が授業をしてくださるので心強いです。1年生から専門科目の経営学が学べるところもいいなと思いました。(1年生Nさん)

【その他】

Q1. 推薦ってどういうものなの？

A1. 経営学部では学校推薦型選抜が採用されています。2021年度入試では共通テストの総合得点が81.3%で合格した人もいます。2021年度は面接がなく、調査書と自己推薦書、学校長が作成した推薦書などと共通テストの得点を提出する必要がありました。共通テストの得点は圧縮される科目もあります。詳しい学生募集要項は例年9月ごろに大学のHPに掲載されます。入試内容自体はもう少し早い時期に発表されるはずですので、気になっている人はこまめにHPを確認しましょう！

Q2. 会計プロフェッショナル育成プログラムとKIBERプログラムは同時にとれるの？

A2. 会計プロフェッショナル育成プログラムは3年生の後期に公認会計士試験を受けることを目標としており、KIBERプログラムは3年生の後期から4年生の前期にかけて海外留学をします。制度として同時にとることができるかはわかりませんが、両方とっている猛者は聞いたことがありません。KIBERプログラムと経営学特別学習プログラム(2023年度より経営データ科学特別学習プログラムに名称変更)をとっている人はいるそうです。プログラムの詳細はHPでご確認ください。